

横浜いのちの電話

広報93号

2017.5.1



社会福祉法人 **横浜いのちの電話**

事務局 〒240-8691 日本郵便保土ヶ谷支店私書箱32号 TEL. 045-333-6163

発行人 花立悦治 横浜いのちの電話広報担当 (市村・澤野・十川・堀木・持川)

制作 HK Communication Design

生涯にわたり 影響する いじめ後遺症を 理解することと 手助けの 可能性

社会の様々なひずみは最も弱い所に現われるといわれます
幸せな子ども時代がなにかによって阻まれ
いじめや差別がもたらす心の健康被害が
今 いじめの後遺症として深刻な状況を伝えています

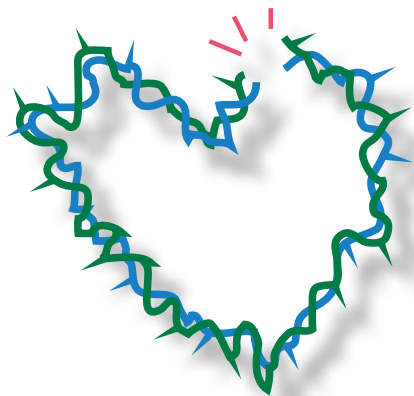
横浜いのちの電話にもいじめの被害者からの相談がありますが
多くの場合は人間関係が苦手であるとか
友達が出来ない 自分を好きになれない うつ症状や
死にたい気持ちになる といった話しからはじまるのです

このような現状をさかのぼりたどる中で
子ども時代に不登校であったとか いじめにあった
家族との楽しい思い出がない 大切にされた記憶がない
ということが浮上してくるのです

苦しいことがあったとき 受けとめてくれる大人がいない
せっかく話したのに 否定されてしまったり
かえってお前に問題があるんじゃないかとしかられたり…
こうなると心は閉じ やはり自分がだめなんだと追い込まれます

大人になって何年も何十年もたっているのに
たまたま職場の中で自分だけに声がかからない事態が生じると
のけ者にされた子ども時代が 今 リアルによみがえり
被害者のメンタリティーに逆戻りして恐怖が襲うのです

一人一人の大切な人生を尊重し
いじめの後遺症が生涯にわたってその人を苦しめる事実を理解し
どのように自己肯定感を得 回復に向かえるのか
長い間子どもに向き合ってきたスーパーバイザーにききます



いじめ、虐待、差別など

人を傷つけるのは人である そして人を癒していくのも人である
だれかが側にいること、一人じゃないと思えることが大切

■ 私のいじめられ体験

最初に私自身のいじめられた体験の振り返りから述べさせていただきます。私のいじめられ体験は、高校に入学した直後でした。入学早々のクラスに、中学を卒業した後の春休みにスキーに行き、足を骨折したクラスメートがいました。足にギブスをはめ、松葉杖で登校していました。私はその彼の歩く姿を真似て踊って見せたのでした。今思うと最初は私が加害者でした。まわりの者から「おもしろい、もっとやれ」と囃し立てられ、それはエスカレーターしていきました。他にももっと面白いことをやれと言われるままにひょうきんなことをしていました。そのうちに段々とそのことがしんどく、つらくなってきました。休み時間が恐怖になり、学校に行くことが嫌になり、気持ちが沈んだ日々が続きました。私自身は自分が「いじめられている」とは思わず、私があんなことをしたのが悪かったのだと思っていました。そんな私に「俺たちの仲間に入れよ」と助け船をだしてくれたクラスメートたちがいました。学校が休みの日には楽しく過ごせる地元の友人たちもいました。そして、私は知らなかったのですが、母親が私の様子がおかしいと担任に相談に行ってくれていたのです。担任は実態を調べ、適切に対応してくれました。私が嫌がることをさせていた人たち数人が私のところにきて、「お前がそのように思っていたとは思わなかった。悪かった。」と謝ってくれました。その後、その人たちとは50年近くたった今でも同窓会で飲み、年賀状のやりとりをしています。

■ いじめられ体験から経験になったこと

私はいじめられていることに気付いていなかった、ただ嫌でつらかったと思っていましたが、本当は“自分がいじめられている”ということ意識しなくなっていたからだと思います。学校を休むこともできず、ましてや学校をやめることは考えられませんでした。このままあの日々が続けば、追い詰められ、死にたいと思ったかもしれません。今振り返ってみると、私には氣遣ってくれるクラスメート

がおり、タイムリーに担任に相談してくれた母親がいて、担任の先生が適切に対応し、やっていた人たちが、私が嫌でつらい気持ちであることに気づき謝ってくれたという理想的な形で解決されたのだと思います。この私のいじめられ体験は、私にとってつらかった苦い経験として残っている反面、自分の人生をより豊かにしてくれた、人を信じること、人の気持ちを感じる力を与えてくれた経験となったと思っています。

■ 仕事を通して知らされた子どもたちの傷

私はこれまで、児童相談所や児童自立支援施設、児童養護施設など、児童福祉の分野で働き、そこで多くの傷ついた子どもたちやその親と出会ってきました。虐待、いじめ、非行、不登校、ひきこもり、家庭内暴力などの課題を抱えた子どもたち、虐待をしてしまう親、子どもを愛せない親、子どもからの暴力におびえている親、さまざまな家族の状況の真只中に入り、関わることができました。特に心に残っていることは非行の子どもたちのことです。シンナー、バイクの窃盗と無免許運転を繰り返す、母親への暴力もあった中学2年生の男子は、その非行の裏側ではグループから使い走りをさせられ、いじめを受けていました。また中学3年生で教師への暴力、シンナー、盗みなどの様々な問題行動をしてきた子どもは、施設内でとてもひどいいじめを繰り返していました。そのいじめ事件が判明した時、本人からは「俺なんか少々悪いことをしてもいいんだ。どうせ俺なんかどうなったっていいんだ…」と話しました。開き直りのような言葉ですが、その子どもは小さい時から施設に入るまで、父親からひどい虐待を受けていたのです。それらの子どもたちが行った暴力、盗み、いじめ等、非行自体は当然いけないことで罰せられるようなことかもしれませんが、その前にその子どもたちが受けてきた虐待や差別について、「俺たちが受けてきた理不尽なことは誰が責任をとってくれるのか」と言葉には出せない思いを感じることも何度もありました。それぞれの生い立ち、育ちの中で、傷つき、



それを癒されることなく過ごすことは、自己肯定感が持たず、その人の後の考え方や行動に大きな影響を与えるものと感じずにはおれませんでした。

■ 子どもの傷を誰が受け止めるのか

このように子どもたちが負った傷を癒すには、親や家族、そして教師やまわりで関わった人たちがその役割を担うことが必要です。しかし虐待など、本来、護ってくれるべき親から傷つけられることになった子どもたちはどうすればよいのでしょうか。チャイルドラインという18歳までの子どもたちの声を受けとめる電話があります。私もその活動にかかわっているのですが、名前は言わなくていい、秘密は守る、どんなことでも一緒に考える、切りたくなったら切ってもいいよという形で電話を受けながら、「いじめを受けていてとてもつらい」「先生に話してもなにもかわらなかった」「学校に行きたくない」「いじめられている子がいるけれど仕返しが怖くて止めに入れない」などのいじめに関する子どもたちの訴えが聞こえてきます。すぐに解決はできないかもしれないけれど、小さな途切れそうな子どもの声を必死に受けとめながら、ひと

りじゃない、一緒に考えている大人がいると思ってもらえることで、少しでもつらい思いが軽くなってほしいと思わずにはおれません。

■ いのちの電話にできること

いのちの電話では、子ども時代に受けた、いじめ、虐待、差別などの傷ついた経験を大人になってからも抱え続けている人たちから電話がかかってきます。電話の向こうからは、親に認められずに育ったこと、親やきょうだいから暴力を受けてきたこと、学校、職場でいじめられ続けたことなどの体験が、今も消えることなく大人になっても苦しんでおり、死にたくなるというような声が聞こえてきます。本来は、傷つきを癒すためには、まず、いじめや虐待をした人がきちんと謝罪し、被害にあった人が許していくことが大切なことだと思うのですが、現実にはなかなかそうはいきません。その場合は、私のいじめられ体験のように、親、先生、友達など、身近で話しを聞いてくれ、支えてくれる人が必要です。誰かがその大変さつらさをわかってくれる、一緒にいてくれるだけでも随分と気持ちが落ち着いてくると思います。でも、そのような人もいなく、大人になってもひとりで抱え込んでいる人たちの傷つき、怒り、悲しみ、孤独、やるせない思いや声を聴いていくのが、いのちの電話ができることと思っています。

■ 一人じゃないと思えることが大切

私は、いじめ、虐待、差別など人の心や体を傷つけるのは人であり、そして傷ついた人を癒していくのも人であると思っています。だれかが側にいてくれること、孤立していない、一人じゃないと思えることが、人にとって大切なことと思っています。チャイルドラインやいのちの電話の最も大事な役割は、電話をとおしてかけてきた人と共にいることだと思います。電話相談でなにができるのかと思われる方も多いかと思いますが、電話をとおしてお互いの気持ちが通じ合うことがいっぱいあります。これを共感というのかもしれませんが、この時に孤独ではないこと、問題がすぐに解決されるわけではないけれど、一緒にいてそのままをわかってくれる人がいるということで安心し、気持ちを少しでも楽にさせていただけるのではないかと思います。いのちの電話には、「電話をしてもつながらない」とクレームが来るほど多くの方々から電話がかかってきます。かけてくださる方々がいらっしゃる以上、これからも電話をとおしての「かけ手」との出会い、一期一会の関係を大切にしながら「いのちの電話」の活動を仲間と共に続けていきたいと思っています。 ■



インフォメーション



[日誌 2016.11~2017.04]

2016年

■ 11月

- 5日(土) 相談員委員会
- 10日(木) フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 11日(金) 事務局会議
- 24日(木) 広報拡大アイデア会議
- 27日(日) 全体研修
- 29日(火) 相談関連部会

■ 12月

- 2日(金) 心理専門相談懇親会
- 3日(土) 相談員委員会
- 5日(月) 事務局会議
- 6日(火) 社会福祉制度改革説明会
- 8日(木) 横浜市監査
- 8日(木) 第6回運営調整会議
- 10日(土) フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 16日(金) 第2回理事会・第2回評議員会
- 17日(土) 事務局長改選の公示
- 19日(月) 相談関連部会
- 28日(水) 事務局仕事納め

2017年

■ 1月

- 4日(水) 事務局仕事始め
- 7日(土) 相談員委員会
- 7日(土) 新年会
- 7日(土) 事務局会議
- 10日(火) フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 12日(木) 相模原市相談員募集説明会
- 17日(火) 事務局長公募開票
- 17日(火) 広報拡大アイデア会議
- 28日(土) 法律専門相談交流会
- 30日(月) 相談関連部会

■ 2月

- 4日(土) 相談員委員会
- 6日(月) 広報編集会議
- 10日(金) フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 10日(金) 第7回運営調整会議
- 11日(土) 相談員のつどい
- 13日(月) 事務局会議
- 22日(水) 財政部会準備会
- 23日(木) 第3回理事会
- 24-25(金土) 宿泊研修
- 28日(火) 相談関連部会

■ 3月

- 2日(木) 第8回運営調整会議
- 4日(土) 相談員委員会
- 8日(水) 春の映画会「ブルックリン」
- 10日(金) フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 10日(金) 横浜市社会福祉法人説明会
- 12日(日) 応募者選考会議・養成研修認定会議
- 13日(月) 第4回理事会・第3回評議員会
- 13日(月) 評議員選任・解任委員会
- 22日(水) 財政部会準備会
- 25日(土) 認定式
- 27日(月) 支援会交流会
- 28日(火) 相談関連部会
- 30日(木) 事務局会議

■ 4月

- 1日(土) 相談員委員会
- 1日(土) 養成研修オリエンテーション
- 7日(木) 事務局会議
- 10日(月) フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 12日(水) 広報編集会議
- 26日(水) 財政部会準備会

編集後記

このテーマを話し合ったとき、
ころがざわついた。何十年も
前にいじめられたことがある。最近そのいじめっ子
の近況を耳にした。外国で幸せに暮らしているとい
う。「あんなに私を苦しめたのにふざけるな!」湧
いたのは彼女に対する怒りだった。自分でもびっく
りした。いじめ後遺症は私の中にもある。(の)

寄付のお願い

眠らぬダイヤルとして24時間体制
で電話相談を続けていくためには、
運営資金が必要です。維持会員ま
たは賛助会員になって資金面でご
協力、ご支援下さい。

●維持会員

(定期的に一定額を援助して下さい)

- 個人 年間1口
3000円 5000円 10000円
- 法人・団体 年間1口
10000円 (何口でも可)

●賛助会員

(任意な時に任意の額を援助して下さい)

- ※法人は損金算入、個人は寄付金控除があり、
税法上の優遇措置の対象となります。
- ※会員の方には広報紙、事業報告、公開講座、
映画会等のお知らせをお送りします。5年
ごとに映画会への無料招待があります。

●振込先

郵便局郵便振替 00240-3-15191
社会福祉法人 横浜いのちの電話

※詳しくは横浜いのちの電話事務局までお問い合わせ下さい。

☎ 045-333-6163 (月～金 9時～17時)



毎月10日は **フリーダイヤル**

なやみ ころろ
0120-783-556

毎月10日 8:00～翌日8:00

24時間・無料です

あなたがつらいとき、近くにいます。
ひとりで悩まないで、こころの苦しみを
お話し下さい。

自殺予防 いのちの電話です

神奈川県共同募金会からの **配分金**



2017年度は広報誌と事業報
告書に充当する予定です。

横浜いのちの電話 **お知らせ**

《秋の催し》

沖仁
フラメンコ ギター コンサート

出演
沖仁 ほか

第5回ムルシア「ニーニョ・リカルド」フラメンコ
ギター国際コンクール国際部門で優勝。
日本人初の快挙を成し遂げた、フラメンコギター
の第一人者 沖仁。
そのテクニックを駆使しつつ、フラメンコギター
の音楽に初めて触れる人にもわかりやすく、
楽しく熱いコンサートをお届けする。

●日時 **2017年9月15日(金)**
開場 17:45 / 開演 18:30

●会場 **関内ホール(大)**
JR・横浜市営地下鉄 関内駅
みなとみらい線 馬車道駅
前売券 **3,500円** / 当日券 **4,000円**
全席自由 発売開始 6月5日

●お問い合わせ 横浜いのちの電話事務局
TEL 045(333)6163 FAX 045(332)5683

主催 **社会福祉法人横浜いのちの電話**



**ひとりぼっちで
悩まずに...**

だれかと話したいとき こころ寂しいとき

横浜いのちの電話相談

045-335-4343 (24時間体制)

外国語電話相談

●ポルトガル語
045-336-2488 0120-66-2488

●スペイン語
045-336-2477 0120-66-2477

相談時間 水 10時～21時
金 19時～21時
土 12時～21時